

2020年1月吉日

News Release

東ソー物流株式会社

## 周南市臨海地区に多機能・多温度帯の新総合物流センターが竣工

東ソーグループの中核物流会社である東ソー物流（本社：山口県周南市）は、東ソー（株）南陽事業所に隣接する周南市臨海地区に昨年（2019年）1月より建設しておりました新総合物流センター（りんかい物流センターA棟）を2月に竣工させます。

主要荷主であります東ソー（株）の製造プラント能力増強に伴う物流量増加が見込まれる中、物流インフラの整備として建設してきたものです。

新総合物流センターは鉄骨造3階建ての耐火建築物で、延床面積は約24,500㎡、建屋内には常温庫、冷凍庫、冷蔵庫、加温庫を有するほか、庫内には約6,500棚の移動式ラックを設置することで段積みが出来ない貨物や段積み制限貨物の効率的な保管が可能となるなど、化学品を専門とする営業倉庫としては西日本最大規模の多機能・多温度帯倉庫となります。

冷凍機にはアンモニア/CO2を冷媒に使用する最新省エネ型自然冷媒冷凍ユニットを採用し環境にも配慮することで、環境省補助事業「脱フロン・低炭素社会の早期実現のための省エネ型自然冷媒機器導入加速化事業」に採択されています。

また建屋2階へトラックが直接アクセスできるランプウェイ方式を採用し、トラックバース予約システムも導入することでトラック待機時間の削減や作業の効率化を実現し、更には倉庫管理システムの導入により事務作業の効率化も図ることで、物流業界の課題となっている人手不足の解消に繋がっています。これらの取組の結果、国土交通省より「物流総合効率化法」における物流効率化計画（輸送網集約事業）として認定を受けています。

当社は、すでに臨海地区に一般倉庫をはじめ、日本最大規模の凍結能力をもった冷蔵倉庫や危険物を保管する屋内貯蔵所・屋外貯蔵所を保有しておりますが、新総合物流センターを稼働させ一元管理することで、保管・取扱い数量が格段に増加することはもとより、指定可燃物（可燃性固体、可燃性液体、合成樹脂類）、毒劇物、危険物第4類に該当する製品にも対応する複合倉庫群として物流サービスの大幅な向上に寄与します。

さらに同地区は、周南石油化学コンビナートの西端に位置し、新南陽港公共埠頭（徳山下松港）や周南大橋に直結していることで陸上・海上輸送の連携にも適した、最適なロケーションであり、当該複合倉庫群を中継点とした様々な物流ニーズにお応えします。

一方、こうした物流倉庫としての機能だけではなく、災害発生時にはランプウェイ設備を有する倉庫の特性を生かし、港湾施設や隣接する広域処分場と連携した地域の防災拠点としての活用も可能と考えます。

当社は今後とも東ソーグループの中核物流会社として、「周南から世界へ」のスローガンのもと、高度化、多様化、グローバル化する物流ニーズに対応を図るとともに、環境にやさしい物流事業を推進することで地球温暖化防止等の環境保全への配慮や地域の防災拠点としての活用等、地域との関わりを常に意識しながら、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

【新総合物流センターの概要】

名 称	りんかい物流センターA棟
所 在 地	山口県周南市臨海町3番2
階 層	3階建て（鉄骨造 耐火建造物 ランプウェイ方式採用）
面 積	建築面積：10,630 m <sup>2</sup> 延床面積：24,356 m <sup>2</sup>
主要設備	収容能力：約22,100トン 保 管 庫：常温庫（移動ラック設置）、冷凍庫、冷蔵庫、 加温庫（移動ラック設置） ※冷凍機には最新省エネ型自然冷媒冷凍ユニットを採用 ※指定可燃物（可燃性固体、可燃性液体、合成樹脂類）も保管可能
設 計	株式会社朝日設計
施 工	株式会社浅沼組
冷却設備	株式会社前川製作所

【新総合物流センターの写真】

りんかい物流センターA棟



## りんかい物流センターおよび新南陽公共ふ頭



### 【当社の会社概要】

本 社：山口県周南市野村一丁目 23 番 15 号

社 長：佐伯 哲治

設 立：1951 年 7 月

事業内容：海上運送事業、陸上運送事業、港湾運送事業、倉庫業、通関業、  
保険代理業

資 本 金：12 億円 ※東ソー株式会社 100%出資

売 上 高：連結 546 億円（単体 481 億円） ※2019 年 3 月期

社 員 数：グループ合計 約 1,540 人（単体：約 670 人） ※2020 年 1 月現在

### 【本件に関するお問い合わせ先】

東ソー物流株式会社

経営管理室 0834-63-0077（友森、坪野）

港湾・倉庫部 0834-62-6821（加藤、桑原）